

08 木曽ひのきに触れるワークショップ

【期 日】 令和元年 7 月 30 日（火）～31 日（水）

【場 所】 名古屋市科学館 第 2 実験室

【内 容】 以下のとおり

今年度の交流事業のうち、長野県「地域発 元気づくり支援金」活用事業として「木曽ひのきに触れるワークショップ」を実施しました。この事業は、以前より木曽川上下流交流事業で関わりのある「水源の里を守ろう 木曽川流域みん・みんの会」の設置した「水源の里基金」を活用し、木曽青峰高校生徒が製作した木工品の寄贈先の一つである名古屋市科学館との共同事業として企画したもので、これまでの交流活動で培われたつながりを活かし発展させる取り組みとして、下流域住民への森林整備啓発を目的に初めて実施したものです。

今回は夏休み期間中の 2 日間、同館内の実験室を利用し、定員親子 16 組×3 回として実施しました。参加者の募集にあたっては、当方で製作したチラシを同館内に設置したほか、同館ホームページで周知（申込専用フォーム付き）を行うなどのご対応をいただき、7 月 1～19 日の比較的短期間の募集ながら各回とも定員を上回る応募があり、抽選で参加者を選定しました。最終的には若干のキャンセルがありましたが、2 日間で合計 40 組 80 名の方にご参加いただきました。

ワークショップの前半では名古屋市と木曽地域のつながりについて歴史的・産業的な背景と水源地である木曽の森林が果たす役割についての説明を行い、後半はひのきチップを加熱・蒸留してアロマオイルや精製水を取り出す実験を行いました。なお、今回は上松町のひのき精香(株)代表取締役である吉川正樹氏に講師としてご参加いただき、実験に先立って山での仕事や工場での製造過程、木曽ひのきの特性などについてお話しいただきました。

後半の実験では、名古屋市科学館学芸員の山田吉孝氏より実験の進め方、器具の取扱い方法について参加者に説明していただき、各テーブルで 1 組ずつ実験を行いました。吉川氏に用意していただいたひのきチップと蒸留水をおよそ 1：1 の割合で枝付フラスコに入れ、ガスバーナーで加熱していくと、次第に中の水が沸騰し、ひのきオイルと蒸留水が水蒸気として吹き出てくる仕組みとなります。

フラスコの細い管から出てきた水蒸気は、氷水入りのビーカーに入れた試験管の中で冷却され、液体に戻り、およそ 20 分で 20cc 程度の抽出に成功しました。

完成した液体（精製水と微量のアロマオイル）はスプレーボトルに詰め替えて持ち帰りいただいたほか、ひのきチップも不織布袋に入れて持ち帰っていただきました。

実験終了後には、「水源の里を守ろう木曽川流域みん・みんの会」の河崎典夫氏（7/30）、近藤進氏（7/31）により、みん・みんの会の活動や水源の里基金を利用した木曽青峰高校生徒による名古屋市科学館への木工作品の寄贈について説明をしていただきました。

なお、今回スタッフとして、学芸員資格取得のため実地研修に来ていた大学生・大学院生 6 名に参加していただき、参加者が実験を行う際に危険がないよう各テーブルを回り、火加減や器具の持ち方などをチェックすることで、事故防止にもつながりました。

☆ 会場の様子



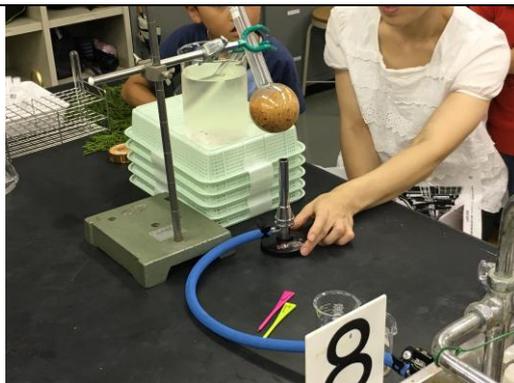
木曾地域の説明



木曾ひのきの説明（吉川氏）



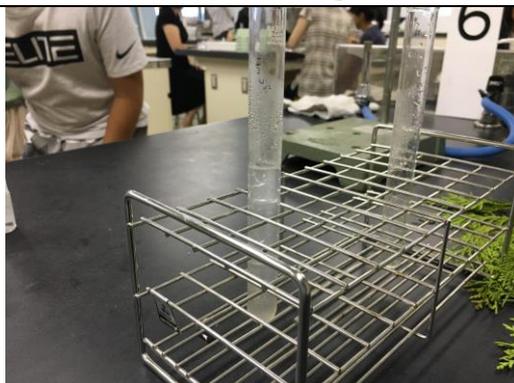
実験時の注意事項説明（山田氏）



実験の様子①



実験の様子②



抽出したオイル・蒸留水



みん・みんの会の活動説明（7/30 河崎氏）



みん・みんの会の活動説明（7/31 近藤氏）